

道 徳

1 研究主題

自他のよさを認め、他者と豊かな人間関係を築こうとする生徒の育成

2 主題設定の理由

前年度の県学習状況調査質問紙では、「将来の夢や目標をもっている」「学校のきまりを守っている」と感じている生徒の割合が県平均より高く、自分自身を認め、よりよい姿でありたいという意識が感じられる。

一方、学年が進むと上記の数値が低くなる傾向があること、保護者が子どもの社会性や思いやり等を気にしていることなど、課題も多い。実際、集団のモラルに納得できない生徒、理解していても実践できない生徒、人間関係に悩みを抱える生徒も多く、集団や社会生活におけるルールやマナー、他者と共に社会を築いていこうとする意識、仲間との関わり方という点で改善と向上が求められる状況にある。

以上のような実態から、互いの意見を出し合い議論する中で、自他の思いを大切にし、人間としての生き方についての自覚を深められるようにするとともに、一人一人の道徳的心情を豊かにし、状況に応じた道徳的判断力を高め、道徳的实践意欲と態度の向上を図りたい。そして、集団生活に欠かせない約束やマナーを守り、互いに協力し合いながら気持ちよく生活できる生徒、相手の立場に立った言動をすることのできる生徒を育てたいと考え、本主題を設定した。

3 重点目標

- (1) 自分自身の姿を見つめ、集団のルールやマナーを守り、より充実した学校生活を作り上げようとする生徒を育てる。
- (2) 他者に思いやりの心をもって接し、友人と互いに励まし合い、高め合うことのできる生徒を育てる。

4 具体的施策

- (1) 自分と向き合い、共感的な人間関係を育てる道徳の授業実践。
 - ① 全体計画や年間指導計画に基づき、計画的に35時間の道徳の時間の授業を実施する。また、計画を弾力的に運用し、実践する。
 - ② 主発問の吟味を中心に据えた教材研究を行い、問題解決的な学習や体験的な学習などの学習方法を工夫して、考えを表現し、生徒同士で深め合う活動を充実させる。
 - ③ 学習シートを工夫し、積み重ねることで、生徒の変容や成長を生徒自らが実感したり、教師が適切に評価に生かしたりできるようにする。
- (2) 道徳の時間を中心にした教育活動全体で道徳を実践、推進するための環境整備。
 - ① 全学年共通重点目標と学年重点目標をそれぞれ1項目に厳選し、各教育活動で重点的に取り組む。特に、道徳の時間では、重点項目に10時間程度の時数を当てた計画を立てる。
 - ② 学級に道徳コーナーを設置し、月別の計画、生徒の感想のほか、事後の生徒の活動の様子を掲示して、生徒同士が互いのよさや努力に気付くことができるようにしたり、教師が率先してそのよさを奨励したりする。
 - ③ 道徳通信や学年部会などを活用し、実践資料や指導過程、評価をはじめとする今後の道徳教育の在り方について情報共有や研修を深める。

平成30年度 道徳教育全体計画

潟上市立天王中学校

